



平成23年3月11日は日本国民にとり永遠に語り継がれる日となった。東日本大震災が発生した午後2時46分、自分自身は九州は博多のホテルに居た。ある企業からの依頼により午後2時から1時間半の講演の最中であった。もし、いつもの東京、もしくは自宅がある横浜に居たら震度5の地震を体験し、もっと強い共感や共有ができる何かがあったはずである。しかし福岡はビクリともしなかった。それが為に今日でも何かしら申し訳なく、後ろめたい気持を脳裏から拭い去ることが出来ない。

講演を終え、控え室に戻る時、担当のギャルソンが小走りに寄って来て、小声で「今、東北地方で大きな地震が有り、大変な状況のようです」と知らせてくれた。そこですぐ居合せた数人の関係者と控え室のテレビをつけてみると、とんでもない映像に息を飲み、言葉を失った。まるで映画のワンシーンのようにどす黒い津波が防波堤を越え人家を襲い、松原をなぎ倒して追いかける光景に、これはとんでもない事が起きたと直感した。茫然と見ているうちに、はたと我に返り、自宅、東京、現地の友人、知人に片端から電話するも何処にもすぐには通じなかった。その日関東方面向けの、陸、空の道は全面ストップとなりそのままホテル泊となった。結局、朝方まで各地の被害状況をテレビで見続けた。

東京に戻ると日を追うごとに地震、津波に加え、予想だにできなかった東京電力福島原発の事故が予断を許されない深刻な状況が続き、戦後始まって以来の国の一大

ゴブラン会吹き出し活動



高林 香代
武内 良恭
竹内 欣宏
嵩下 義則
田崎 真也
田崎 千堯
田島 加寿夫
辰巳 芳子
田中 美保
田辺 幸子
谷 君子
谷 義雄
田野 民雄
近田 信乃
長澤 恵美子
長澤 美明
柘植 末利
対馬 千賀子

鉄矢 由支子
富田 春江
豊島 秀夫
豊田 優子
豊永 正臣
中田 伊代子
永田 俊一
中田 保
永田 緑
永田 絹子
中津 真実
中野 匡昭
中村 勝宏
中村 将典
中村 フミエ
中村 義幸
中村 龍太郎
中山 隆一郎

成田 律子
成澤 知道
二木 真人
西田 さおり
西谷 江里奈
西野 安彦
西野 洋子
西村 (日本旅行)
貫井 和也
野口 徹人
野口 好夫
橋本 裕之
長谷川美代子
花岡 甲子夫
濱野 昌子
原田 恵子
阪 泰人
伴野 愛

光武 桂
久木元 孝行
久松 玄
久松 謙城
日高 千絵
平田 宏子
廣瀬 彰彦
広瀬 敦子
廣瀬 喜久子
広田 昭二
深澤 朋子
福田 寿美子
藤井 栄司
藤井 美夫
藤崎 のり子
藤田 純一
藤田 真弘
藤野 ゆか

二口 美哉子
冬木 れい
細田 敏子
細田 雅春
堀田 利子
堀江 実智子
堀澤 康明
堀田 大
本多 秀行
前島 慶子
前田 真理
前田 優
前中 功子
正木 裕文
増子 勝美
増井 錠治
増岡 勇樹
町田 好生

松川 眞也
松本 望
丸山 幸子
三浦 修
三浦 充子
三上 英子
三木 順子
水野 邦昭
水元 重友
水元 三千子
皆川 セツ
皆川 豊秋
宮崎 博美
宮澤 綾子
宮下 泰三
三輪 秀和
宗像 純登
宗像 妙子

村上 毅
村上 マオ
村中 伸吉
村松 栄治
村松 照子
室橋 美津子
茂木 寿
茂木 八重子
森角 浩章
両角 洋子
安井 嘉久
安田 恒
安間 百合子
山岸 平
山岸 春
山口 浩
山坂 法道
山崎 和子

山崎 祥平
山下 久仁子
山田 公子
山田 宏行
山野内 保雄
山方 茂利
余語 悦子
横山 京子
横山 正人
吉倉 福三
吉田 明彦
吉田 成一
吉野 泉
吉野 公規
和氣 由美子
渡辺 静代
渡辺 政昭